

PAT-NO: JP408034469A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08034469 A  
TITLE: PACKAGING MATERIAL, PACKAGE AND TAKE-OUT  
METHOD FOR  
SUSHI WRAPPED WITH FRIED BEAN CURD  
PUBN-DATE: February 6, 1996

INVENTOR-INFORMATION:  
NAME  
YUYA, KEIJI

ASSIGNEE-INFORMATION:  
NAME COUNTRY  
KK SHINKU DREAM N/A

APPL-NO: JP06228330  
APPL-DATE: September 22, 1994  
INT-CL (IPC): B65D065/10

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a packaging material, package which is packaged by the packaging material and taking-out method for sushi wrapped with fried bean curd, wherein sushi wrapped with fried bean curd is individually packaged, a sticky feeling of hand when the sushi is eaten does not generate, and in addition, the juice of fried bean curd does not leak out from the package at the time of circulation.

CONSTITUTION: An opening means A is provided on a packaging material main body 1 being formed of a synthetic resin film by which sushi 6 wrapped with fried bean curd can be packaged. In addition, a sheet 4 for gripping is

provided between the packaging material main body 1 and the sushi 6 wrapped with fried bean curd which is packaged. Then, the package is constituted in such a manner that the sushi 6 wrapped with fried bean curd being packaged is opened by the opening means A and can be taken out together with the sheet 4 for gripping.

COPYRIGHT: (C)1996, JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-34469

(43)公開日 平成8年(1996)2月6日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

B 6 5 D 65/10

識別記号

A

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数15 O L (全 9 頁)

(21)出願番号 特願平6-228330

(22)出願日 平成6年(1994)9月22日

(31)優先権主張番号 特願平6-101232

(32)優先日 平6(1994)5月16日

(33)優先権主張国 日本 (J P)

(71)出願人 591217610

有限会社シンクドリーム

大阪府茨木市水尾3丁目2番5号

(72)発明者 油谷 勲二

大阪府茨木市水尾3丁目2番5号 有限会

社シンクドリーム内

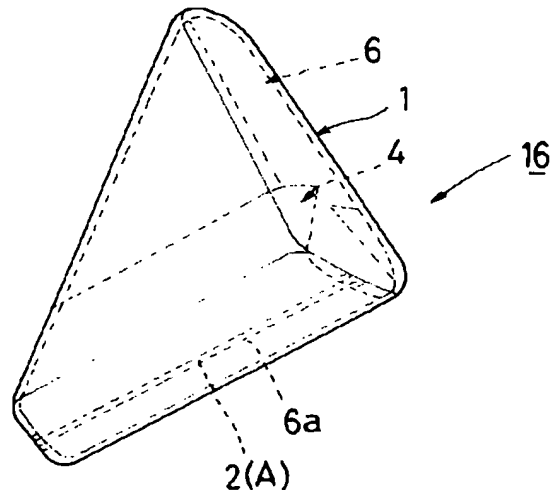
(74)代理人 弁理士 藤本 昇

(54)【発明の名称】 いなり寿司用包装材及びいなり寿司包装体並びにいなり寿司の取出し方法

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 いなり寿司を個別包装すると共に、それを食するときの手へのベタ付きを生じさせることがなく、然も、流通時に油揚げの汁が包装体から漏出しないいなり寿司用包装材及びその包装材にて包装されたいなり寿司包装体並びにいなり寿司の取出し方法を提供することを目的とするものである。

【構成】 いなり寿司用包装材に関し、いなり寿司6の包装可能な合成樹脂フィルムにて形成された包装材本体1には開封手段Aが設けられ、且つ該包装材本体1と包装されるいなり寿司6との間には把持用シート4が設けられ、しかも前記包装されるいなり寿司6が前記開封手段Aで開封されて前記把持用シート4と共に摘出可能に構成したいなり寿司用包装材。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 いなり寿司(6)の包装可能な合成樹脂フィルムにて形成された包装材本体(1)には開封手段(A)が設けられ、且つ該包装材本体(1)と包装されたいなり寿司(6)との間には把持用シート(4)が設けられ、しかも前記包装されたいなり寿司(6)が前記開封手段(A)で開封されて前記把持用シート(4)と共に摘出可能であることを特徴とするいなり寿司用包装材。

【請求項2】 いなり寿司(6)の包装可能な合成樹脂フィルム製の包装材本体(1)が、略中央部に開封手段(A)が設けられた外装フィルム(8)と、該外装フィルム(8)の略中央部で一辺(9a)側を開閉可能にすべく重ね合わせて配置された一対の内装フィルム(9)とが周縁部(8a)にて接着されて構成され、前記内装フィルム(9)には多数の孔(12)が穿設され、且つ前記外装フィルム(8)と内装フィルム(9)との間には把持用シート(4)が収納されてなることを特徴とするいなり寿司用包装材。

【請求項3】 前記把持用シート(4)のいなり寿司(6)と接する側に油分等の液体を吸収しうる吸液材が設けられている請求項1又は2記載のいなり寿司用包装材。

【請求項4】 前記把持用シート(4)が、合成樹脂シートの基材(5)と不織布(5a)との2重構造からなる請求項1～3の何れかに記載のいなり寿司用包装材。

【請求項5】 前記把持用シート(4)が、合成樹脂シートの基材(5)又は不織布(5a)の何れか一方の単層構造からなる請求項1又は2記載のいなり寿司用包装材。

【請求項6】 開封手段(A)が設けられた合成樹脂フィルムからなる包装材本体(1)によつていなり寿司(6)が包装され、且つ該包装材本体(1)と該包装されたいなり寿司(6)との間には把持用シート(4)が設けられ、しかも前記いなり寿司(6)が前記開封手段(A)で開封されて前記把持用シート(4)と共に摘出可能であることを特徴とするいなり寿司包装体。

【請求項7】 略中央部に開封手段(A)が設けられた外装フィルム(8)と、該外装フィルム(8)の略中央部で一辺(9a)側を開閉可能にすべく重ね合わせて配置された一対の多数の孔(12)の穿設された内装フィルム(9)とが周縁部(8a)にて接着された包装材本体(1)の前記外装フィルム(8)と内装フィルム(9)との間には、把持用シート(4)が収納され、且つ該内装フィルム(9)を内側にしていなり寿司(6)が包装されたことを特徴とするいなり寿司包装体。

【請求項8】 前記把持用シート(4)のいなり寿司(6)と接する側に油分等の液体を吸収しうる吸液材が設けられている請求項6又は7記載のいなり寿司包装体。

【請求項9】 前記把持用シート(4)が合成樹脂シートの基材(5)と不織布(5a)の2重構造からなる請求項6～8の何れかに記載のいなり寿司包装体。

【請求項10】 前記把持用シート(4)が合成樹脂シートの基材(5)又は不織布(5a)の何れか一方の単層構造か

らなる請求項6又は7記載のいなり寿司包装体。

【請求項11】 開封手段(A)が設けられた合成樹脂フィルムからなる包装材本体(1)によつていなり寿司(6)が包装され、且つ該包装材本体(1)と該包装されたいなり寿司(6)との間には把持用シート(4)が設けられてないなり寿司包装体の前記開封手段(A)を用いて包装体を開封し、その後、前記把持用シート(4)を介して前記いなり寿司(6)を摘出することを特徴とするいなり寿司の取出し方法。

10 【請求項12】 略中央部に開封手段(A)が設けられた外装フィルム(8)と、該外装フィルム(8)の略中央部で一辺(9a)側を開閉可能にすべく重ね合わせて配置された一対の多数の孔(12)の穿設された内装フィルム(9)とが周縁部(8a)にて接着された包装材本体(1)の前記外装フィルム(8)と内装フィルム(9)との間には、把持用シート(4)が収納され、且つ該内装フィルム(9)を内側にしていなり寿司(6)が包装されたいなり寿司包装体の前記開封手段(A)を用いて前記外装フィルム(8)を分断し、該分断された2枚のフィルムを左右に引張り一方のフィルムを除去することによりいなり寿司(6)を露出させ、前記把持用シート(4)を介して前記いなり寿司(6)を摘出することを特徴とするいなり寿司の取出し方法。

20 【請求項13】 前記把持用シート(4)のいなり寿司(6)と接する側に油分等の液体を吸収しうる吸液材が設けられている請求項11又は12記載のいなり寿司の取出し方法。

【請求項14】 前記把持用シート(4)が合成樹脂シートの基材(5)と不織布(5a)の2重構造からなる請求項11～13の何れかに記載のいなり寿司の取出し方法。

30 【請求項15】 前記把持用シート(4)が合成樹脂シートの基材(5)又は不織布(5a)の何れか一方の単層構造からなる請求項11又は12記載のいなり寿司の取出し方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、いなり寿司を個別に包装する為のいなり寿司用包装材及びその包装用シートにて収納されたいなり寿司の包装体並びに包装されたいなり寿司の取出し方法に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、いなり寿司の包装としては、複数個、例えば6個のいなり寿司が一つの容器に収納されて販売されていた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、6個のいなり寿司を一つの容器に収納すると、1個だけいなり寿司を食べたいと思っている購買者にとっては、必要以上に購入することとなり、結果的にこのような複数個のいなり寿司を包装した包装体の購入が躊躇されることとなっていた。

【0004】そこで、周知のおにぎりの包装体の如く個別に包装することも可能であるが、このようなおにぎりの包装体は、合成樹脂製フィルムにて形成されており、油分等の液体を吸収しないため包装されたいなり寿司を取り出す場合、油揚げの油分等の液体によって手がベタ付き、手で直接掴んで食するには適さないという問題点がある。

【0005】さらに、流通時に油揚げからでる汁（油分等の液体、以下同じ）が包装体から漏出するという問題点もある。

【0006】本発明は、上記の如き従来の問題点に鑑みてなされたもので、いなり寿司を個別包装すると共に、それを食するときの手へのベタ付きを生じさせることなく、然も、流通時に油揚げの汁が包装体から漏出しないいなり寿司用包装材及びその包装材にて包装されたいなり寿司包装体並びにいなり寿司の取出し方法を提供することを課題とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、このような課題を解決するためになされたもので、その課題を解決するための第一の技術的手段は、いなり寿司用包装材に関し、いなり寿司6の包装可能な合成樹脂フィルムにて形成された包装材本体1には開封手段Aが設けられ、且つ該包装材本体1と包装されるいなり寿司6との間には把持用シート4が設けられ、しかも前記包装されるいなり寿司6が前記開封手段Aで開封されて前記把持用シート4と共に摘出可能に構成したことにある。

【0008】さらに、第二の技術的手段は、いなり寿司包装体に関し、開封手段Aが設けられた合成樹脂フィルムからなる包装材本体1によっていなり寿司6が包装され、且つ該包装材本体1と該包装されたいなり寿司6との間には把持用シート4が設けられ、しかも前記いなり寿司6が前記開封手段Aで開封されて前記把持用シート4と共に摘出可能に構成したことにある。

【0009】また、第三の技術的手段は、いなり寿司の取出し方法に関し、開封手段Aが設けられた合成樹脂フィルムからなる包装材本体1によっていなり寿司6が包装され、且つ該包装材本体1と該包装されたいなり寿司6との間には把持用シート4が設けられてなるいなり寿司包装体の前記開封手段Aを用いて包装体を開封し、その後前記把持用シート4を介して前記いなり寿司6を摘出すことにある。

【0010】さらに、前記いなり寿司用包装材、いなり寿司包装体又はいなり寿司の取出し方法に於いて、把持用シート4のいなり寿司6と接する側に油分等の液体を吸収しうる吸液材、例えば合成樹脂シートの基材5と不織布5aとからなる2重構造で構成してもよい。

【0011】

【作用】本発明に係るいなり寿司用包装材は、いなり寿司6の包装可能な合成樹脂フィルムにて形成された包装

材本体1には開封手段Aが設けられ、且つ該包装材本体1と包装されるいなり寿司6の間には把持用シート4が設けられてなる。よって、前記いなり寿司用包装材にて形成されたいなり寿司包装体は、開封手段Aにていなり寿司包装体を開封すれば把持用シート4が露出する。

【0012】また、いなり寿司6が前記把持用シート4と共に摘出可能に構成されてなるので、前記露出した把持用シート4を介していなり寿司6を掴み、いなり寿司包装体から取り出すことができる。

10 【0013】従って、いなり寿司6の取出し方法も極めて容易であり、更に把持用シート4を介して摘んでいるので、油揚げに直接手が触れず、そのままいなり寿司6を手持って食することができる。

【0014】また、前記把持用シート4のいなり寿司6と接する側に油分等を吸収しうる吸液材7を設けたことにより、包装されたいなり寿司6の油揚げからでる余分な汁を吸収することができる。従って、油揚げの余分な汁が包装体から漏出することもない。

【0015】

20 【実施例】

<第一実施例>以下、本発明に係るいなり寿司用包装材及びいなり寿司包装体の一実施例について、図面を参照しながら説明する。図1及び図2に於いて、1は略長形状に形成されたポリプロピレンフィルムからなる包装材本体を示し、その長辺1aの略中央部から相対する長辺1bの略中央部に架けて開封手段Aとしてカットテープ2が設けられ、且つ前記長辺1a、1bにはカットテープ2を挟んで切込み線3が2ヶ所に夫々設けられてなる。

30 【0016】4は前記包装材本体1の略中央部、即ち開封手段Aであるカットテープ2の近傍7に介装された把持用シートを示し、その把持用シート4はポリプロピレンフィルムシートからなる略矩形状の基材5に油分等の液体を吸収しうる吸液材である略矩形状の不織布5aが貼着された2重構造のシートで構成されてなる。尚、前記把持用シート4の大きさは、少なくともいなり寿司を把持用シート4を介して手で摘むときにその油揚げが手に触れず、且つ把持用シート4と共にいなり寿司を掴み出せる程度の大きさである。

40 【0017】さらに、図2の2点鎖線に示すように、前記構成からなるいなり寿司用包装材15の把持用シート4の不織布5a上に略三角形のいなり寿司6の底部6aが接するように載置し、図3に示す如く包装材本体1の短辺1c、1dを折り返して前記いなり寿司6を包装することにより包装体16は形成される。

【0018】このように形成された包装体16は、いなり寿司6の底部6aが把持用シート4の不織布5aに接してなるので、その油揚げから出る汁が前記不織布5aにより吸収される。従って、油揚げから出る汁が包装体16から漏出することもないという効果がある。

50 【0019】次に、前記いなり寿司6を食するときのそ

5

の取出し方法について以下に説明する。まず、図4に示すようにカットテープ2 によって包装体16を開封すると、その開口部16a から把持用シート4 が露出することとなる。

【0020】そして、前記露出した把持用シート4 と共にいなり寿司6 を手で掴み出す。(図4に示す二点鎖線参照。)

このように極めて容易にいなり寿司6 を取り出すことができるだけでなく、把持用シート4 を介して掴み出し、いなり寿司6 を把持することができるので、前記把持用シート4 の基材5 が油揚げの汁手が油揚げの汁により汚れることもなく、取出した後そのまま食することができる。

【0021】<第二実施例>図5及び図6に於いて、1 は、略長形状の短辺1cの略中央部から相対する短辺1dの略中央部にかけて開封手段A としてカットテープ2 が設けられてなるポリプロピレン製の外装フィルム8 と、このカットテープ2 に沿って一辺9a側が重なり合う一対の内装フィルム9 とからなる包装材本体を示し、その外装フィルム8の短辺1c、1d を除く周縁部8aにおいて前記内装フィルム9 は熱溶着されてなり、しかも前記内装フィルム9 の一辺9a側は夫々外方に折り返されて重なり合っている。

【0022】また、前記短辺1c、1d にはカットテープ2 を挟んで切込み線3,3 が刻設されている。さらに、前記短辺1cのカットテープ2 を中心とした両端の略対称位置は、略台形状に切欠11が夫々設けられている。尚、前記内装フィルム9 は多数の孔12が任意に穿設された有孔フィルムである。

【0023】さらに、前記外装フィルム8 と内装フィルム9 との間の略中央部には把持用シート4 が収納される。この把持用シート4 は吸液材である親油性且つ疎水性の不織布5aと、ポリプロピレンシートからなる略矩形状の基材5 とがその周縁部10のみが熱溶着されて接合されている。尚、把持用シート4 の形状は第一実施例に比して小さく形成されている。これは、把持用シート4 に覆われるいなり寿司6 の面積を小さくし食べ易くするためである。本実施例では、包装体本体1 を2重フィルムで構成し且つそのフィルムの間把持用シート4 を収納するため包装体本体1 の幅より小さい把持用シート4 を用いることができる。

【0024】上記構成からなるいなり寿司用包装材15の把持用シート4 が収納された部分の内装フィルム9 上にいなり寿司6 を載置し、第一実施例同様に先ず短辺1dを折り返し、次に短辺1cを折り返して切欠11を重なり合わせ、その部分をテープ等で貼着することによって包装体16は形成される(図7参照)。

【0025】このように形成された包装体16は、いなり寿司6 の底部16a が内装フィルム9に接してなり、この内装フィルム9 には多数の孔12が穿設されているので、

6

いなり寿司6 の油揚げから出る汁が前記孔12を通り把持用シート4 に設けられた不織布5aに吸収され、第一実施例同様の効果がある。

【0026】尚、本実施例に於いては、親油性且つ疎水性の不織布5aを使用しているため、油揚げからしみ出る油分のみが吸収されることとなる。従って、油揚げの水分は吸収されず、いなり寿司6 が乾燥し過ぎることによる風味の低下を防止することができるという新たな効果もある。

【0027】ところで、かかる包装体16を開封していなり寿司6 を取り出す場合は、先ずカットテープ2 を除去することにより開口部16a を形成して包装材本体1 を2つに分断する。そして、図8に示すように、その分断された包装材本体1 の一方13をいなり寿司6 と共に掴み、且つ他方14の分断された包装材本体1 のみを掴んで右方に引っ張ると、いなり寿司6 の半分が把持用シート4 と共に露出することとなる。

【0028】次に、半分露出した把持用シート4 をいなり寿司6 と共に掴み(同図2点鎖線) 右方に引っ張ると、何ら手を汚すこともなくいなり寿司6 が取出し食することができるのである。

【0029】<第三実施例>図9に於いて、1 は略形状に形成されたポリプロピレンフィルムからなる包装材本体を示す。尚、前記ポリプロピレンフィルムは包装材本体1 の短辺1cから相対する短辺1d方向に方向性を有する一軸延伸フィルムである。

【0030】さらに、前記包装材本体1 の短辺1cの略中央部には2ヶ所の切込み線3,3 が設けられてなり、短辺1dにも相対する2ヶ所の切込み線3,3 が設けられてなる。即ち、前記方向性フィルムと切込み線3,3 が開封手段A である。4 は第一実施例同様の2重構造の把持用シートを示し、前記包装材本体1 の略中央部の開封手段A 近傍に設けられている。

【0031】前記構成からなるいなり寿司用包装材15の把持用シート4 上に略俵形状のいなり寿司6 を載置し、包装材本体1 にてそのいなり寿司6 を包囲しながら巻装し、短辺1c、1d 側を絞ることによって包装体16は形成される(図10及び図11参照)。

【0032】このように形成されたいなり寿司用包装材15及びその包装体16も第一実施例同様の効果がある。さらに、本実施例に係るいなり寿司6 の取出し方法は、図12に示すように方向性フィルムからなる包装材本体1 の短辺1cの切込み線3,3 間の舌状片1eを短辺1d側に引くことにより開口部16a が開口し、その開口部16a から把持用シート4と共に露出したいなり寿司6 を手で掴み出す(同図2点鎖線)。

【0033】尚、本実施例に於いて、包装材本体1 は略形状に形成されてなるが、図13に示すような略長形状のフィルム18の上端両側部に一対の被覆フィルム19,19が延設された略T字形状の包装材本体1 であっても

7

よい。この場合、前記被覆フィルム19,19 にていなり寿司6 の両側を覆い、前記フィルム18にていなり寿司6 を巻装することによりいなり寿司包装体15が形成される（図示せず）。

【0034】＜第四実施例＞図14及び図15に於いて、1 はポリプロピレンフィルム製の表フィルム20と裏フィルム21とからなる略三角形形状の包装袋本体を示し、その包装袋本体1 の一端側1fにはいなり寿司の挿入出口である開口部16a が設けられ、且つ側縁1g,1gは熱溶着にて閉塞されている。

【0035】さらに、前記一端側1fの裏フィルム21は延出されて封緘片22が設けられてなり、且つ第一実施例と同様に開封手段A としてカットテープ2 と切込み線3,3 が設けられなる。6 は前記包装用袋本体1 に挿入される略三角形形状のいなり寿司を示し、第一実施例と同様の2重構造の把持用シート材4 が、いなり寿司6 の底部6aに接するように設けられてなる。

【0036】また、図16に示すように、上記構成からなるいなり寿司用包装材15内に底部6aに把持用シート材4 が設けられたいなり寿司6 を挿入し、前記封緘片22にて開口部16a を閉塞することによりいなり寿司包装体16 は形成される。

【0037】このように構成されたいなり寿司包装用袋15及びその包装体16も第一実施例同様の効果がある。尚、本実施例に係るいなり寿司6 の取出し方法は、前記カットテープ2 によって包装体16を開封すると、開口部16a から把持用シート材4 が露出する。そして、前記露出した把持用シート材4 と共にいなり寿司6 を手で掴み出せばよい（図示せず）。

【0038】＜他実施例＞尚、上記実施例に於いて、把持用シート4 はポリプロピレンフィルムシートからなる基材5 に吸液材として不織布5aが設けられた2重構造であるが、必ずしも2重構造でなければならないわけではなく、把持用シート4 は単層構造、例えば不織布5aのみで構成されていてもよいし、又ポリプロピレン製のフィルムシートのみでもよい。

【0039】また、上記実施例に於いて、基材5 の材質は、ポリプロピレン製のフィルムであるが、必ずしもこれに限定されるものではなく、他の合成樹脂フィルム、例えばポリエチレン等でもよい。加えて、把持用シート4 の吸液材は、上記実施例のような不織布に限定されるものではなく、他の吸液材、例えば紙、織り布等でもよい。

【0040】さらに、上記実施例に於いて、把持用シート4 の形状は、略矩形形状であるが必ずしもこの形状に限定されるものではなく、略円形状、略楕円形状、略三角形形状、略多角形状、正形状、略歯形状、その他の形状でもよい。要は、いなり寿司6 を手で掴んで包装体16から取り出すときに、少なくともその油揚げが手に触れない程度の形状であればよいのである。従って、いなり寿司

8

司6 全体を覆う形状でも構わないが、いなり寿司6 を食するときに邪魔になる。

【0041】また、上記実施例に於いて、把持用シート4 に設けられた吸液材である不織布5aの形状は略矩形形状であるが、必ずしもこれに限定されず、例えば図17に示すように複数の不織布5aから構成されていてもよい。さらに、不織布5aは、必ずしも把持用シート4 に貼着或いは周縁部10のみが熱溶着されていなければならないわけではなく、単に載置するだけでもよい。

10 【0042】但し、吸液材が基材に貼着された場合、吸液材と基材との間に接着剤が介在するので、周縁部10のみを熱溶着した場合や単に載置した場合に比して、油分等の液体を吸収し難い。しかし、吸収しすぎると油揚げが乾燥するので、いなり寿司の大きさ等に合わせて適宜選択して使用する必要がある。要は、いなり寿司6 に接し、且つその油揚げの汁を吸収するものであればよく、その材質・形状等は特に限定されない。

20 【0043】また、上記実施例に於いて、包装材本体1の開封手段A として、カットテープ2 と切込み線3,3、方向性フィルムと切込線3,3 を用いたが、開封手段A は必ずしもこれらに限定されるものではなく、例えば図18に示すように、2枚のフィルムが開口部16a にて弱く熱溶着23されてなるもの、図19に示すように、ミシン目24が刻設されてそのミシン目24から開封することにより開口部16a が開口するもの等でもよい。

【0044】さらに、包装材本体1 の形状は、上記各実施例に限定されるものではない。要は、いなり寿司6 が包装可能であり、且つ開封手段A が設けられ、その開封手段A にて開封された開口部16a から把持用シート4 が設けられたいなり寿司6の底部6aが露出する構成であればよいのである。また、上記実施例に於いて、包装材本体1 は単層のフィルムであるが、積層フィルムでもよく、更に複数枚のフィルムが一部で熱溶着されて構成されていてもよい。

【0045】尚、上記実施例に於いて、いなり寿司6 の形状は、略三角形形状又は略俵形状であるが、必ずしもこれらに限定されるものではなく、略円錐形状、略棒状、その他の形状でもよい。

【0046】

40 【発明の効果】本発明に係るいなり寿司用包装材によって形成されたいなり寿司包装体は、開口部に把持用シートが設けられてなるので、その把持用シートと共にいなり寿司を掴み、引出せば包装材本体からいなり寿司を取り出すことができる。このように、包装されたいなり寿司の取出しも極めて容易であり、更に把持用シートを介して摘んでいるので、油揚げに直接手が触れることがない。従って、手に油揚げの汁が付着することなく、そのままいなり寿司を手にとって食することができる。

50 【0047】さらに、前記把持用シートのいなり寿司の接する側に吸液材を設けることにより、包装されたいな

り寿司の油揚げからでる余分な汁を吸収することができる。従って、流通段階で油揚げの余分な汁が包装体から漏出することもない。

【0048】上記のようにいなり寿司包装体に把持用シート、更にその把持用シートに吸液材を設けることにより、従来の問題点を解消でき、いなり寿司を個別に包装することができるようになった。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るいなり寿司用包装材の第一実施例を示す平面図。

【図2】図1のイーイー線断面図。

【図3】本発明に係るいなり寿司包装体の第一実施例を示す一部展開斜視図。

【図4】本発明に係るいなり寿司包装体からいなり寿司を取り出し方法を示す斜視図。

【図5】本発明に係るいなり寿司用包装材の第二実施例を示す平面図。

【図6】図5のローロ線断面図。

【図7】本発明に係るいなり寿司包装体の第二実施例を示す正面図。

【図8】本発明に係るいなり寿司包装体からいなり寿司を取り出し方法を示す説明図。

【図9】本発明に係るいなり寿司用包装材の第三実施例を示す平面図。

【図10】本発明に係るいなり寿司包装体の第三実施例を示す正面図。

【図11】図10のハーハ線拡大断面図。

【図12】本発明に係るいなり寿司包装体からいなり寿司を取り出し方法を示す説明図。

【図13】本発明に係るいなり寿司用包装材の他実施例を示す平面図。

【図14】本発明に係るいなり寿司用包装材の第四実施例を示す平面図。

10 【図15】同斜視図。

【図16】本発明に係るいなり寿司包装体の第四実施例を示す斜視図。

【図17】本発明に係る把持用シートの他実施例を示す平面図。

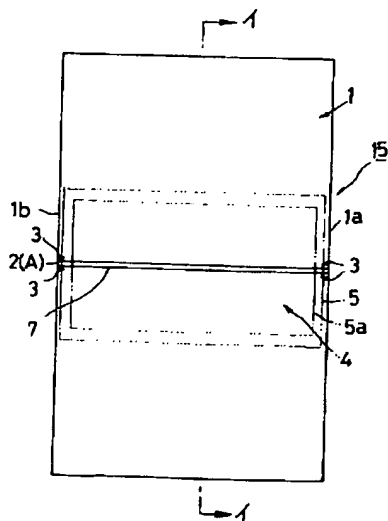
【図18】本発明に係る開封手段の他実施例を示す細部拡大断面図。

【図19】本発明に係る開封手段の他実施例を示す平面図。

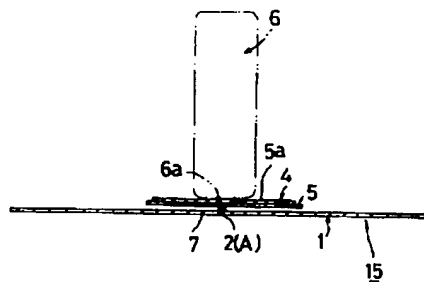
【符号の説明】

20 1…包装材本体、4…把持用シート、5…基材、5a…不織布、6…いなり寿司、8…外装フィルム、8a…周縁部、9…内装フィルム、9a…一辺、12…孔、A…開封手段

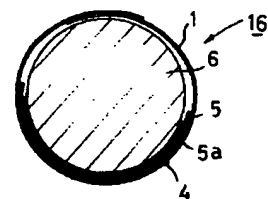
【図1】



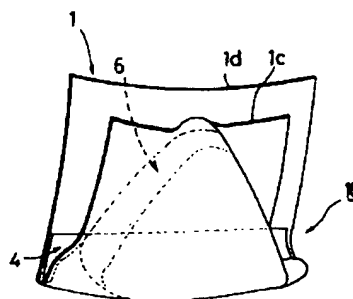
【図2】



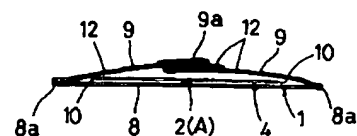
【図11】



【図3】

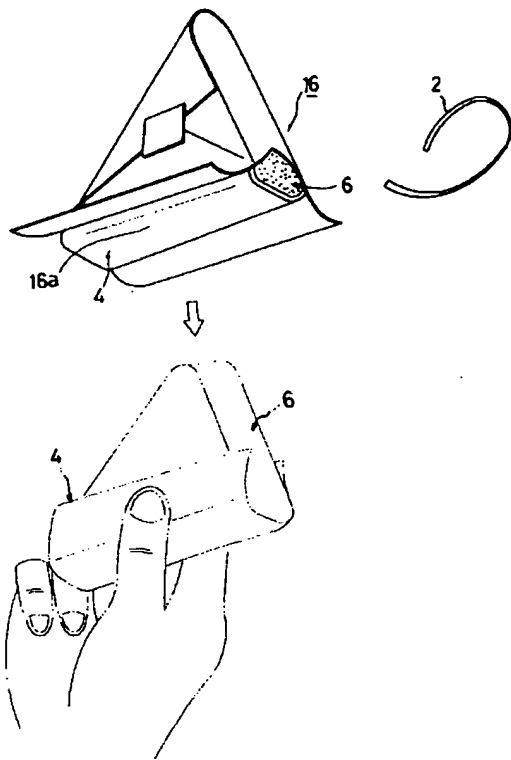


【図6】

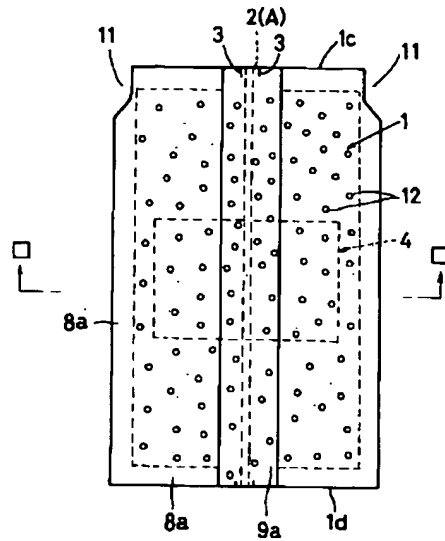




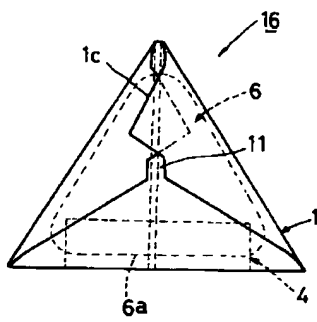
【図4】



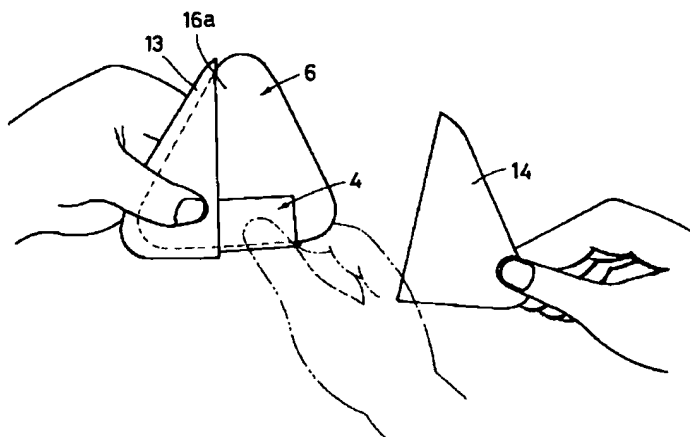
【図5】



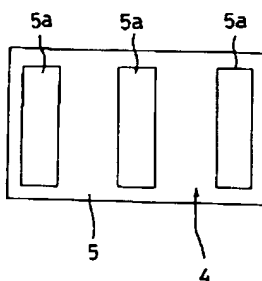
【図7】



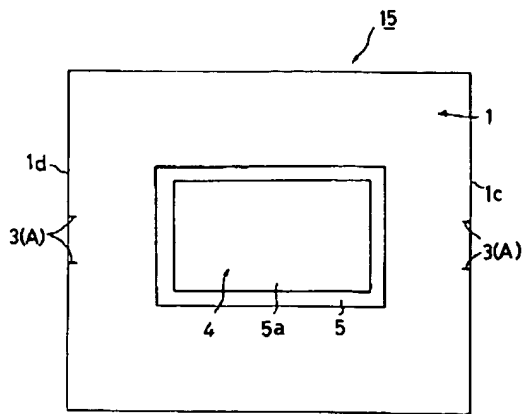
【図8】



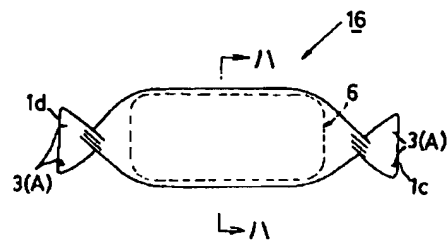
【図17】



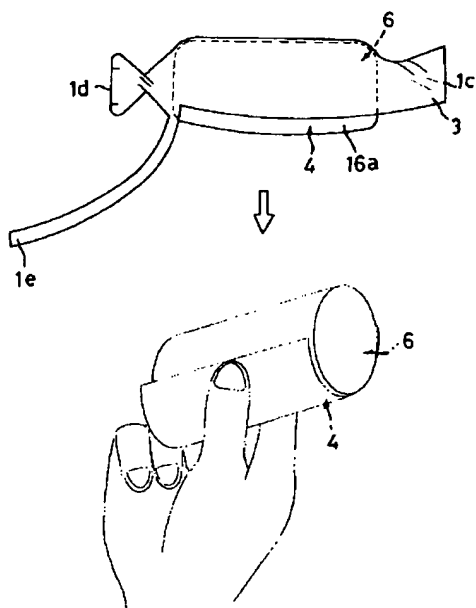
【図9】



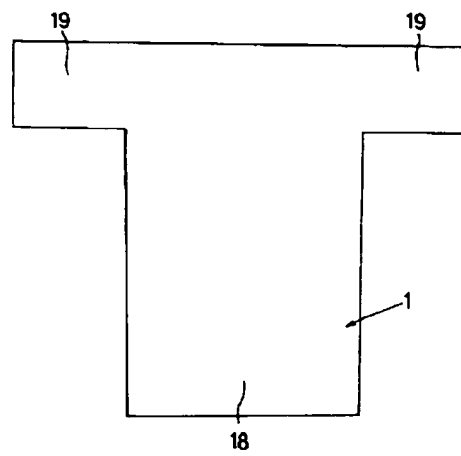
【図10】



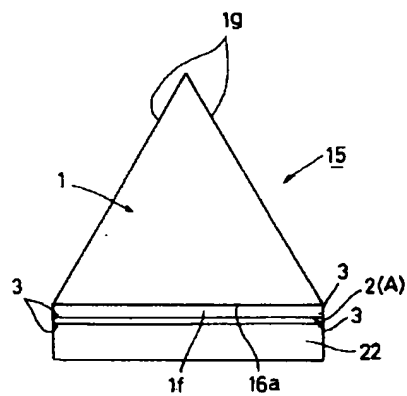
【図12】



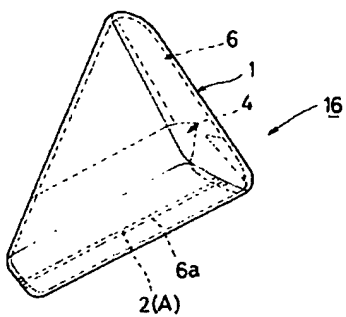
【図13】



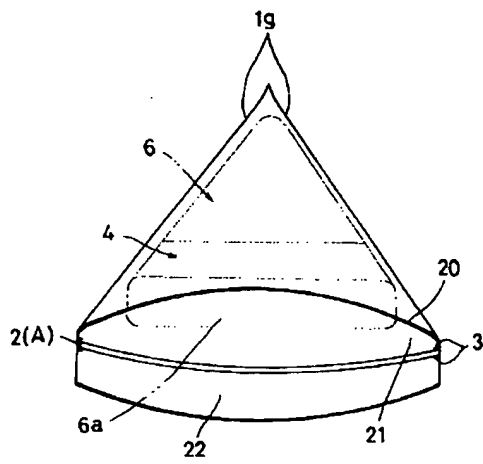
【図14】



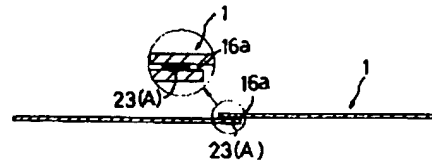
【図16】



【図15】



【図18】



【図19】

